



第5回目 勤務助産師部会「わいわいカフェ」

日時：令和3年10月6日18時30分～19時30分 / テーマ：「仕事と家庭の両立、どんな工夫をしていますか？」

《プログラム》

1. 開会、オリエンテーション
2. 自己紹介
3. 話題提供
「仕事と家庭の両立、
どんな工夫をしていますか？」
4. コメント
5. その他
6. 兵庫県助産師会活動報告

《勤務助産師部会活動予定》

- ・文化祭
- ・近畿地区研修会
- ・日本助産師会
三部会交流集会
- ・日本助産師会部会集会
- ・勤務助産師部会企画研修会
「助産師のわざ」

(※詳細はホームページを
ご覧ください。)



《情報と意見交換》

- ・仕事と家庭を両立するための工夫は、「頼れる者には頼る(ママ友をフル活用、子育てをしていなかたった実父も、孫の世話を通して出来ることが増えて成長する)」・「持ちつ持たれつなので遠慮しない」・「コミュニケーション力を磨くこと」・「折り合い」や「割り切り」の意識も大切である。
- ・子どもは、親の後ろ姿を見て育っていく。まずは、「自分自身を大切にすること」も重要。
- ・始めは夫に頼ることが出来なかった。夫がしてくれることを当たり前と思っていた。「過度な期待はせず」、夫に「感謝を伝える」ようになった。
- ・「感謝は具体的な内容で相手に伝える。」(具体的な内容を伝えることで、相手も学習できる。)
- ・「家庭で笑顔を見せる」ことを大切にしている。自分が安心して仕事に行けるのは、子どもが笑顔だからだとも思う。
- ・勤務が分かると、1週間のスケジュールを決めた。今でも、その時に考えた献立や買い物の記録を見ると懐かしい。
- ・大変なこともあるが、「また楽しい時も来ると思い、仕事を辞めずに続けて」良かったと思う。
- ・定時に仕事が終われば退職せず、仕事復帰する者が多い。なので、「オンとオフをしっかり切り替える」が重要だと思う。今年度の看護部の目標に『定時にチャレンジ、仕事をアレンジ』を掲げている。
- ・「それぞれの時間の使い方が異なる。それが、それぞれの人生である。」
- ・母親が仕事中は家に不在なので、子どもは自由放題だった。その時間が「子どもの自立」と繋がった。
- ・育休制度は、自分の思いだけの思いで利用するのではなく、「先駆者として」、これからの人が育休を利用しやすいように活用する視点も大切。
- ・大人になった今でも、時々、親のサポートが必要だったり、親にイラついたりすることがある。
- ・上司が嫌味を言う姿を見て、自分は妊娠や育児をしているスタッフに優しくなろうと思った。



次回の12月カフェ

「助産師としてのキャリアアップを考えよう」

(※日時はホームページで案内！)